

弦楽器の弓に関するアンケート

目的 CoP20 の開幕に合わせ、ペルナンブコ材が CITES 付属書 I に登録された場合の影響を周知すると共に、認知度および声を集めます。

課題設定 「ペルナンブコ」というブラジル固有の木があります。その木は数百年にわたり弦楽器の弓の素材として使われてきましたが、長年にわたる伐採のため枯渇し、近年ワシントン条約の付属書 II に掲載され取引が規制されました。

しかし、2025 年 11 月のワシントン条約会議において付属書 I への記載変更が検討され、学術研究を目的とした取引以外は全面的に禁止される可能性が高まりました。付属書 I への記載変更が決定すると、弓の新造だけでなく、現在使用されている弓も国外への持ち出しが禁止されるので、世界中の弦楽器奏者の演奏活動にも大きな影響が及びます。

音楽家の自由な演奏活動に大きな影響と障害をもたらすことから、日本音楽家ユニオンはペルナンブコのワシントン条約の付属書 I への記載変更に反対の立場をとっています。

今回のアンケートを通してより多くの方に危機的現状を知ってもらい、関係各所に知らせていきたいと考えています。

アンケートの周知など、ご協力をお願ひいたします。"

実施機関 日本音楽家ユニオン

調査期間 2025 年 10 月 30 日～11 月 11 日

調査対象 音楽を愛する人、本問題に関心のある人

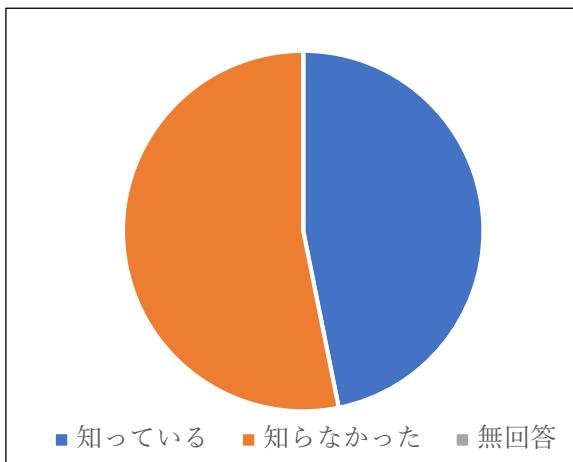
集計日 2025 年 11 月 12 日

回答数 190

I. 集計

Q 1. 最近のペルナンブコとワシントン条約に関してご存知でしたか。

	回答数	割合 (%)
知っている	89	46.8
知らなかった	101	53.2
無回答	0	0.0
合 計	190	

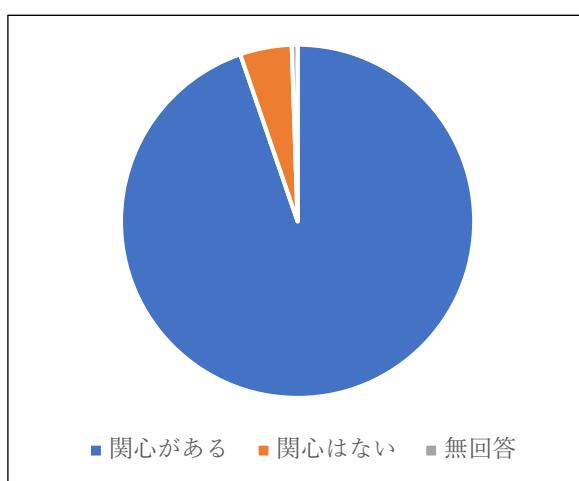


【考 察】

約半数の認知度が認められる。意識的に情報に接しないとわからない分野であることから、比較的高い認知度といえるのではないか。

Q 2. 上記について関心はありますか

	回答数	割合 (%)
関心がある	180	94.7
関心はない	9	4.7
無回答	1	0.5
合 計	190	

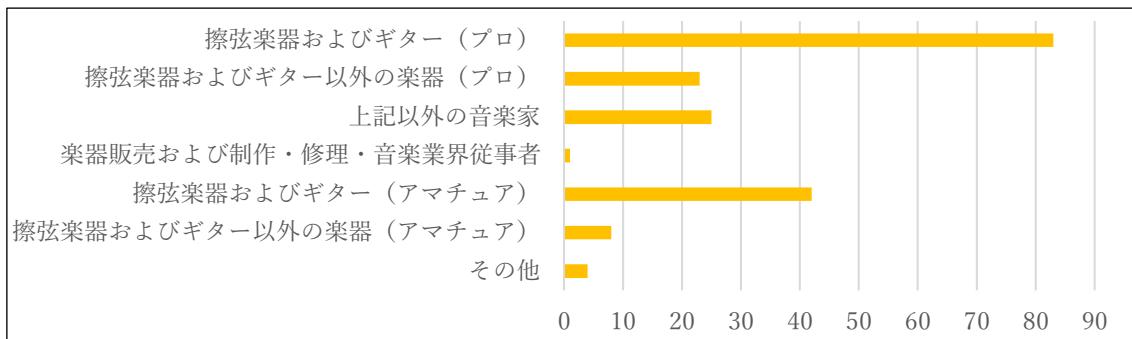


【考 察】

非常に高い関心度が認められる。自身の活動への影響、音への影響などへの不安の裏返しとも受け取られる。

Q 3. あなたの専門は何ですか？

	回答数	割合 (%)
擦弦楽器およびギター（プロ）	83	43.7
擦弦楽器およびギター以外の楽器（プロ）	23	12.1
上記以外の音楽家	25	13.2
楽器販売および制作・修理・音楽業界従事者	1	0.5
擦弦楽器およびギター（アマチュア）	42	22.1
擦弦楽器およびギター以外の楽器（アマチュア）	9	4.7
その他	3	1.6
無回答	4	2.1
合 計	190	

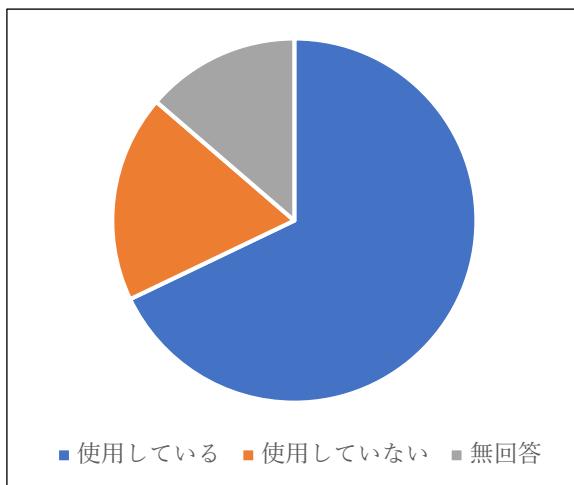


【考 察】

プロ・アマチュア問わず擦弦楽器の関係者が全体の 65.8%を占めている。そのことから、回答内容は現場感覚を持った関係者の声を反映したものと捉えて差し支えないものと考える。

Q 4. 擦弦楽器およびギターの方でペルナンブコ材の楽器や弓を使用していますか？

	回答数	割合 (%)
使用している	129	67.9
使用していない	35	18.4
無回答	26	13.7
合 計	190	



【考 察】

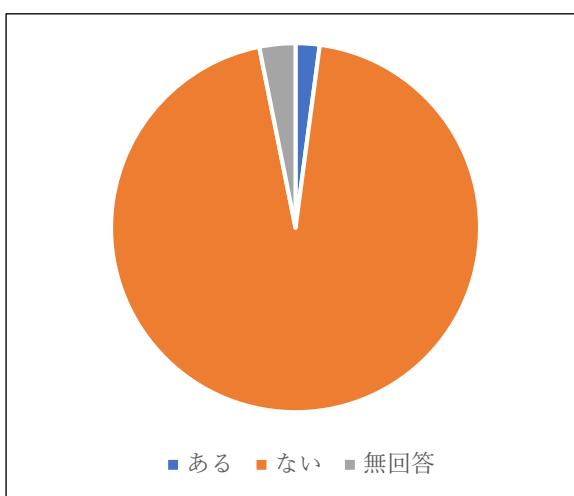
ペルナンブコ材を使用していると回答した 129 名の内訳は下記の通り。

- ・擦弦楽器（プロ） 80
- ・擦弦楽器（アマチュア） 30
- ・擦弦楽器以外（プロ） 14
- ・擦弦楽器以外（アマチュア） 2
- ・その他 3

擦弦楽器演奏者 125 名（Q 3 より）中、同材を利用が 110 名（88%）を占めている。多くの演奏者が同材に依存し、不可欠と考えていることがわかる。

Q 5. ワシントン条約に関連したトラブルの経験はありますか？

	回答数	割合 (%)
あ る	4	2.1
な い	180	94.7
無回答	6	3.2
合 計	190	



Q 6. 上記の質問に「ある」と回答された方。内容を聞かせていただけますか？

- ①象牙の問題
- ②ピアノ象牙鍵盤の国際運搬のトラブル
- ③弓に使用されている象牙チップをドイツやアメリカ入国際に剥がされた方が身近におり、今後の対策について相談受けた。

Q 7. 今回の件についてご意見、質問があればご記入下さい。(原文ママ)

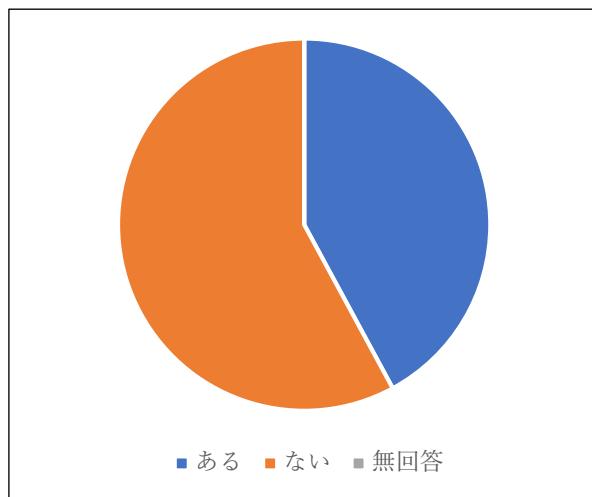
- ①今まで楽器に用いられていた木材が枯渇によって製造不可においやられています。
(特にエレキギターのアルダー材など) また野球のバット材であるアオダモも減少していると聞きます。貴重な木材は保護すべきです。
- ②製造年月日が条約締結前の弓や楽器に関しては、せめて許可制でも海外に持ち出し可能になって欲しいと思います。
- ③これから若い音楽家の楽器確保ができないとなると不安ですね。
- ④これは音楽家にとって大切な問題です。弦楽器の弓に関しては例外措置が施行されるよう全世界の音楽家が働きかけなければならないと思います。
- ⑤邦楽が専門分野です。今回の件同様に、象牙や鼈甲が新造できないことが話題になりました。楽器を構成するパーツは、その物理的特性以上に演奏者のメンタルに作用することが多いように思います。現実には代替え素材の研究開発が進んでおり、聴衆側からは代替え素材でも区別がつかない、気付かれないとという調査結果もあります。
客観的に見れば、実物に迫る性能の代替え素材は開発されており、聴く側からもその区別がつかないし、音色の良し悪しは素材では無く演奏者の技量に左右されるというのが現実だと思います。理的にはそう思うのですが、一方で演奏者の気分のありようによって演奏の質が大きく変わることも事実です。鼈甲で無ければ良い演奏ができない、というのは只の我儘ですが、その我儘を押し通せるのは卓越した演奏技量があるからでしょう。無ければないで何とかなるものでしょうが、少なくとも今使っているモノが海外に持ち出せないという事態は、あってはならないことでしょう。いつもの弓が使い難い、手にしつくりこない弓では満足できる演奏にならないという気分は演奏に影響し、聴衆も充実感が得られず、結果として演奏者の評価が下がってしまうことになる。そう考えると弓の持ち出しを禁じることは威力業務妨害にあたるのではないでしょうか。
- ⑥何がどのように悪影響を及ぼしているかきちんと調べてからにしてほしい。大雑把すぎる。
- ⑦ユニオンからのメールで初めて知りました。もっと広く周知されるべき問題だと思います。保護の大切さとともに、音楽界に現実的にどれほど深刻な影響があるかがきちんと理解された上で検討されることを切に願います。
- ⑧ファイバーの弓など他の資材はまだ品質・性能がそれには遠く及ばず、他には代え難いものがありますので、せめて楽器に特化した措置など考えて頂きたいと考えています。
象牙やべっ甲などよりも影響は大きいと思います。

- ⑨現状でも大変困った問題だと思っています。さらなる規制にならないようルールを守つて大切に使用したいと思います。
- ⑩暴利を貪るためではなく過去からのレガシーを紡いでいくために少しだけ使わせてもらいたいという、音楽に関わる人々の些細かもしれないけど大きな願いをどうか理解してもらいたいです。
- ⑪数字のデータがありますか。どこかで公表しているのであればアクセス先を知りたいです。年間どれくらいが伐採されて、そのうち、何割が弓に使われているのか、など訴えていくには相対的なデータが必要かと思いますがそのあたりはユニオンさんの方でどのように考えているか知りたいです。呼びかけられた私たちも納得のいく形で参加したいので。宜しくお願ひします。
- ⑫アマチュアオーケストラ団員ですが、アマオケでも海外へ演奏に出かける方はおられまので、プロアマ問わず楽器としての弓はなんとかならないかと思っています。オーボエや木管楽器のグラナディア材も準絶滅危惧種にあがっているそうなので、単に輸出入規制に反対するのではなく、何かしらの方策を考えいただけますと助かります。アマチュアにできることは、寄付ぐらいでしょうか。
- ⑬声明とアンケートを、出来るだけ多くの音楽関係者や音楽愛好家に広めていきたいともいます。
- ⑭植物を守るために新たな伐採を禁止することは、地球を守る上でもしかしたら仕方がないのかもしれないが、すでに楽器として製造されていて、楽器として使用されているものについては、国外への持ち出しが許可される仕組みづくりをしてほしいと願います。
- ⑮象牙の件といい、楽器という我々にとってなくてはならないものが規制を受けることに強い反感と疑念を覚えます。
- ⑯より多くの方に周知してもらえるよう微妙ながら私も協力させていただきたいと思います。
- ⑰イギリスでバイオリン教師をしています。日本に弓をもって帰れなくなるととても厄介ですね。
- ⑱実演家の現状や文化に対する十分な配慮を持った、現実的な決定がなされることを願いたいです。
- ⑲何でも関係者以外が規制をし過ぎると思います。
- ⑳海外での演奏機会があるため、弓に規制がかかると大変困ります。既存の弓にも規制をかけるというのは、演奏家の自由な演奏活動・表現を制限するものです。これからも今まで通りに演奏活動が出来ればと思います。
- ㉑クラシック音楽のリスナーとして、音楽家の国際移動時に弓の輸出入許可が必要になれば、長期的には、クラシック音楽の質の低下につながっていくことを懸念しています
- ㉒ペルナンブコ材の規制と円安の影響もあり、弓の価格が著しく高騰しており、購入のハードルが異常に上がっている。新作で200万円以上が常識になってきており、懸念している。演奏レベルを引き上げるためにも、価格がこれ以上高騰することがないよう、規制について、業界全体で取り組む必要があると感じる。

- ㉓楽器の制作に関して未来に危惧感じています。
- ㉔そもそもフェルナンブコが枯渇しているという事実が本当なのかも疑わしいところです。もし仮にそうだとしても弦楽器の弓という特殊な用途がその原因などとは考えられますでしょうか？無意味は規制はやめていただきたいと思います。
- ㉕今回の付属書 I への引き上げは象牙並みの規制を掛けて欲しいというブラジルの強い意向によるが、これによって起こる弊害を音楽家にほとんど周知されていない事に危機感を持っていた。当方では独自に国際フェルナンブコ保護基金のサイトなどから翻訳したもの顧客に提供し署名を促してきたが、音楽家ユニオンがこのように動いてくれた事に感謝している。残された 1 か月足らずの期間に周知と署名運動の輪を積極的に広げる事が出来なければ、弓の売買だけでなく、音楽家が国境を超えて演奏活動を行うことが難しくなる可能性は高い。同業者内にも「影響があまりに大きいので、実際には可決されないので？」という楽観論も聞かれるが、行動を起こさなければその提案を承認した事になるという意識を持って欲しい。ただこの木ポルトガル語名「パウ・ブラジル」がブラジルの国名の由来であり、元々の森林面積の 10%をとっくに割り込んでいる事実、3 年前の問題提起以降も違法伐採が止まらない現実を見ると、ブラジル国民の気持ちも非常に理解出来る。問題の解決には継続的な関心と支援が必要である。
- ㉖弦楽器奏者にとって大変重要な問題だと思います。少なくとも現状維持を望みたいです。
- ㉗音楽家の方には大問題だと思います。鼓の狐、簞築の葦、弦楽器のハラカンダとか、他に変えの利かない材料の枯渇は単に経済や地球環境の話ではなく、文化の問題だと思います。拡散して応援してまいります。
- ㉘私が約 50 年前大学生の時にペルナンブコ製のコントラバスの弓を買い以降愛用しています。貴重な木だと思いますが、それだけ、弦楽器の弓の材料として必要です。公正、自由な取引を期待します。
- ㉙ペルナンブコ材がなくなってしまったら大変なので、それを理解した上で、それでも必要な演奏家の手許には届くようにしていただきたいです。
- ㉚ヨーロッパへの持ち込みも、何れ禁止になる可能性はあるのでしょうか？弓の毛箱が鼈甲や象牙の場合も、税関で引っかかるのでしょうか？それなら、殆どの弓先のチップは象牙で出来ているのですが、それだと大部分の弓が、ワシントン条約で規制される国には持ち込めない筈です。そのところ、現状はどのようにになっているか、知りたいです。
- ㉛素敵な音楽を奏るために輸入禁止はしてほしくないです。それ以外の方法を人類で摸索していくべきだと思います。
- ㉜私自身も音楽家ですので、要望の内容はもちろん賛成です。一方で、この文書を受け取った側にとって、それを検討すべき土台に立てていないことが気になります。ペルナンブコの保全とは具体的に何をするのですか？音楽家は協力しますよ、のスタンスで何をするのですか？修理用の木材の取引という名目で結局新作弓が作れてしまうといったことが起きうると思いませんか？正直相手方にとって読む価値のないお気持ち文書だと思いました。これまでの流通を維持する代わりにできることを提案すべきです。

■あなたは日本音楽家ユニオンの会員ですか

回答数	割合 (%)
は い	80 42.1
いいえ	110 57.9
無回答	0 0.0
合 計	190



II. 自由意見に関する考察と回答のようなもの

- ・自由意見では 32 件の記述があった。多くが保護と活用の共存を望んでおり、お互いの立場を理解した上で話し合うことが重要と考える。
- ・貴重な木材は保護すべき (①) という意見もある一方、保護の必要性の根拠を示すべき (⑥⑪⑯⑲⑳) という意見も多く見られる。
- ・その他、国際間移動への影響 (②⑬⑭⑮⑯)、製造への影響 (③⑯⑰) そして、演奏や文化的価値への影響 (⑤⑦⑧⑯⑯⑯) が多く寄せられている。
- ・中でも⑤の意見は（最後の部分は別として）演奏家の心理をよく表していると言える。
- ・また、運動に協力するに当たり数字の根拠を示して欲しいとの指摘がある。(⑪) 我々も同様の意見を持っており、保護すべき理由と根拠となる科学的・学術的調査が示されてはじめて議論の緒につくことができる我认为。しかし、管見の限りそれらのデータを見つけることはできない。参考までに今回の会議に向けブラジル政府が提出した資料を別紙にて添付する。

III. アンケートの活用

- ・「トリオ・カラス リサイタル&シンポジウム『ペルナンブコと音楽文化の行方』」(2025 年 11 月 13 日@汐留ホール (日仏文化協会) 主催: 株式会社アルシェ | 株式会社文京楽器) にパネリストとして登壇し、アンケートの集計結果を発表した。

IV. CoP20 での議論

- 1) 現地時間 11 月 26 日に文書 97 を議論
 - ・<https://www.youtube.com/watch?v=AYccCOAMcP0>
 - ・最初にブラジルより付属書 I への移行の必要性を訴えた。
 - ・これに対しアメリカから保護の必要は認めつつも、付属書 I へ移行することへの反論があり、提案 46 と合わせ検討することとなった。

2) CoP20 提案 46 : ブラジル政府による提案書（要旨）

【附属書 I への移行根拠／保全状況と現状の脅威】

- ・絶滅危惧種 (EN) への分類 : IUCN レッドリストおよびブラジル脅威植物レッドリストの両方で絶滅危惧種 (EN) に分類されている。過去 150 年間 (3 世代) で、個体数が 50%以上減少したことに基づく。
- ・生息地の深刻な減少と断片化 : 固有の生息地であるブラジルの大西洋岸森林が、元の被覆の 10%未満にまで減少している。生息域は、農業、牧畜、都市化の拡大により高度に断片化している。大西洋岸森林は、世界で最も脅威にさらされている生物多様性ホットスポットの一つと見なされている。
- ・選択的伐採による被害 : 主に弦楽器の弓 (ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロなど) の製造を目的とした、高品質な木材の選択的かつ規制されていない伐採が、本種に対する深刻な脅威である。成長が遅く (商業的成熟に 30~50 年かかる)、自然再生が低い。選択的伐採は、残存する野生個体群の成熟個体数と遺伝的多様性を継続的に減少させている。
- ・現行の規制の不十分さ : 現在の CITES 附属書 II への掲載と注釈 #10 (弓を含む木材は規制対象) では、合法的および非合法的な弓用木材の選択的伐採が残存する自生個体群に重大な圧力をかけ続けており、保全を保証するには不十分である。

3) アメリカの反論

- ・アメリカは、附属書 I への移行よりも、附属書 II に留めておきながら、注釈の改正やトレーサビリティの強化など、実行文書 (COP20 Doc. 97) に記載されている措置を支持する方が、種の長期的な保全に繋がると主張しています。

【反対の根拠】

- ・解決策のミスマッチを強調 : 附属書 I への移行は、不正な植林許可証や虚偽の条約発効前 (pre-Convention) の主張によって隠蔽されている違法伐採といった、ブラジル国内の執行における根本的な課題を解決しない。かえってさらなる違法取引を助長する可能性がある。
- ・代替案と効果的な措置の提唱 : 本種を附属書 II に留めることが望ましい。
- ・条約発効前の材料や植林木材のトレーサビリティと管理システムを改善することが長期的には違法取引を減らし、野生個体群を保護する上でより効果的である。
- ・現在の附属書 II の注釈を改正し、品物が一旦ブラジル国外に出た後に違法に採取されたものであっても再輸出を可能にしてしまう抜け穴を塞ぐ必要がある。
- ・附属書 II に留めた上でゼロ輸出割当 (ゼロ・クォータ) の導入も選択肢となり得る。

4) 議論の継続

- ・現地時間 12 月 4 日、再度の協議がなされた。
- ・ブラジルからは再度、付属書 I への移行が提案されました。その理由として、①過剰伐採、密猟、生息地減少による種の絶滅のリスク、②付属書 I に引き上げることで国際取引を抑制することを挙げています。

- ・これに対し付属書II維持を支持する音楽産業関係者や締約国からは、①音楽産業への影響（国際取引が事実上禁止され、音楽家、弓製作者、楽器商に壊滅的な影響を与える。また、国際的な持ち運びが極めて煩雑になる）②既存の保全努力が無になるとして、付属書IIの枠組みを強化することで違法伐採に対処することで、合法的な取引と音楽文化は両立できると主張した。
 - ・ブラジルは関係者からの懸念に耳を傾け、注釈の修正点を提案した。
- 【提案された注釈の修正点】**
- ①非営利目的の完成された楽器、その付属品、および部品の国境を越える移動を1回の出荷あたり10kgの制限内で除外する。
 - ②この調整は、保全の必要性と音楽家にとっての文化的・実用的な重要性のバランスを取ることを目的としている。
- ・欧州連合代表者はこの修正案を支持し、ブラジルが提案した完成された楽器に関する注釈の修正案も支持し、交換が困難な弓の移動を容易にするためにこの注釈は不可欠であると述べた。
 - ・採択の結果、ペルナンブコは付属書IIにとどまることが決定しました。

5) 新たな規制措置

①新たな規制措置

野生採取された商業目的の標本に対し「ゼロ割当」を適用する新たな注釈を採択。

②追加の決定事項

トレーサビリティの強化、代替材の研究、違法取引防止の啓発活動など、附属書IIの枠組み内での種の保全と管理を強化するための新たな決定（Decisions）を採択。

③音楽家の配慮

演奏家が個人的に使用するペルナンブコ弓の国際的な持ち運びについては、原則としてCITESの許可証を不要とする特例が維持されました。

*特例の内容：非営利目的の完成された楽器、その付属品、および部品の国境を越える移動を、1回の出荷あたり10kgの制限内で除外する。

★これらの規定は2026年3月上旬に発効される予定です。

V. 音楽ユニオン声明

Cop20におけるペルナンブコ材（ブラジルボク）の 附属書I移行に関する音楽家の立場からの声明

日本音楽家ユニオン*は、地球規模での自然環境の保全の重要性を深く理解し、そのとりくみに賛同するものです。中でも弦楽器の弓の材料として不可欠なペルナンブコ材（ブラジルボク）については、強い危機感を持っています。

しかしながら、CoP20（2025年11月・ウズベキスタン）においてブラジル政府が同材をCITES（ワシントン条約）附属書Iへ移行する提案をされていることに対し、音楽文化と芸術的表現の持続性という観点から、深い懸念を表明せざるを得ません。

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスといった弦楽器の弓においてペルナンブコ材は、密度・弾力・共振性により他の木材にはない豊かで繊細かつ力強い音色を実現し、演奏家の意図する表現を正確に具現する最適な材として使われ、数えきれないほどの名演奏を影で支えてきました。

その材が使えなくなることは音色の変化を意味し、何百年にわたり培われてきた演奏技術や音楽様式にも影響を及ぼし、人類共通の文化遺産を損なう恐れがあります。

ペルナンブコ材が附属書Iに移行し商業的な国際取引が原則禁止された場合、音楽文化に以下の深刻な影響を及ぼすことが予想されます。

1) 質の低下

代替材の模索は続けられていますが、現時点でペルナンブコ材に代わるものは見つかっていません。弓の製作・修理が困難となることでハイレベルの演奏の維持・実現が困難となります。

2) 維持の危機

現存する弓が破損した場合、修理・補修が不可能となり、歴史的価値の高い弓や著名な製作家の弓など貴重な文化財が、使用できない状態に陥る危険性があります。

私たちは、ペルナンブコ材の保全の必要性を理解しつつ、以下の点を強く要望し、提案いたします。

1) 附属書Iへの移行見送り

附属書Iへの移行ではなく、より柔軟な規制を可能とする附属書IIに据え置き、適切な取引管理により、保全と文化的利用の両立を図ることを検討してください。

2) 既存の弓・材料への特例措置

規制が強化される場合でも、個人所有の弓の移動および既に流通している製作・修理用材料の取引は、音楽文化持続のため特例措置を設けることを強く求めます。

3) 持続可能な利用のための連携

ペルナンブコ材の持続可能な栽培・利用、密猟防止策に対し、音楽家も積極的に協力します。保全活動と芸術活動が共存できる枠組みを国際的に構築することを提案します。

ペルナンブコ材は単なる木材ではなく、音楽芸術の魂を宿す材料です。私たちは環境保全と文化の継承は両立できると確信しており、そのための建設的な対話を望みます。

CoP20に参加される皆様には、この声明に込められた日本の音楽家、楽器製作者および音楽愛好家の切実な願いと、芸術表現の未来への影響について、特別な配慮をいただきまますようお願い申し上げます。

2025年10月31日

日本音楽家ユニオン
東京都新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 2F
URL <https://www.muj.or.jp>
E-mail honbu@muj.or.jp

*日本音楽家ユニオン：日本で唯一のプロのミュージシャンによる全国単一労働組合。1983年結成。

フリーランスおよびプロフェッショナルオーケストラの実演家だけでなく、作詞、作曲、編曲、写譜、バックステージスタッフまで音楽に関わるあらゆる分野で働く労働者で構成。

Statement from Musicians Regarding the Proposed Transfer of Pernambuco Wood

(Brazilwood) to CITES Appendix I at CoP20

The Musicians' Union of Japan recognizes the critical importance of global biodiversity conservation and fully supports international efforts to protect endangered species. At the same time, we express our profound concern — from the perspective of sustaining musical culture and artistic expression — regarding the proposal by the Government of Brazil to transfer Pernambuco (*Paubrasilia echinata*), a material essential for bows of string instruments, to Appendix I of the Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora (CITES) at CoP20 (scheduled for November 2025 in Uzbekistan).

For bows of string instruments such as the violin, viola, cello, and double bass, Pernambuco has long been widely recognized as the only historically established material whose unique balance of density, elasticity, and acoustic responsiveness enables the full realization of the performer's artistic intent. Its contribution to the world's musical heritage — supporting centuries of performance practice at the highest level — cannot be overstated.

If the use of Pernambuco were to become effectively impossible, changes in timbre and performance response would be inevitable. This could impair performance techniques and musical styles that have been cultivated over hundreds of years, resulting in harm to a shared cultural heritage that belongs to people around the world.

If international commercial trade in Pernambuco were to be prohibited under Appendix I as a general rule, the following serious impacts on musical culture are anticipated:

1) Compromised Performance Standards

Despite ongoing research into alternative materials, no current substitute matches Pernambuco's mechanical and acoustic properties. Bow making and repair would become significantly more challenging, threatening the maintenance of high-level musical performance.

2) Risk to Historic and Valuable Bows

Once damaged, existing bows — including those of high historical significance or made by renowned craftspeople — may no longer be repairable, placing irreplaceable cultural assets at risk of being lost to use.

While recognizing the need for conservation of Pernambuco, we strongly request and propose the following:

1) Retain Pernambuco in Appendix II

Rather than transferring it to Appendix I, we urge Parties to consider maintaining it under Appendix II, allowing flexible regulation that enables both species conservation and cultural use through appropriate trade management.

2) Special Provisions for Existing Bows and Materials

Even if regulations are strengthened, we call for measures to ensure continued movement of personally owned bows and trade of materials already in circulation for manufacture and repair, thereby supporting the sustainability of musical culture.

3) Collaboration for Sustainable Use

Musicians are committed to cooperation in sustainable cultivation, use, and anti-poaching efforts for Pernambuco. We propose the creation of an international framework in which conservation and artistic activities can coexist.

Pernambuco is not merely timber; it is a material that forms an essential foundation of musical art. We firmly believe that environmental conservation and the continuation of cultural heritage can be reconciled, and we seek constructive dialogue toward this shared goal.

We respectfully ask all those involved in CoP20 — including governments, international institutions, and civil society — to give due consideration to the sincere concerns of Japanese musicians, instrument makers, and music lovers expressed herein, and to the profound implications for the future of artistic expression.

October 31, 2025

Musicians' Union of Japan

2F Geinō Kaden-sha, 6-12-30 Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo

URL <https://www.muj.or.jp> E-mail honbu@muj.or.jp

The Musicians' Union of Japan (MUJ) is the only national labor union in Japan representing professional musicians, founded in 1983. Its membership includes performers in professional orchestras and freelancers, as well as lyricists, composers, arrangers, music copyists, and backstage staff involved in music-related work.

VI. 参考資料

1) CITES の URL (会議の文書や YouTube 動画も閲覧および視聴可能)

- <https://cites.org/eng/cop20>

2) 文書

- 別紙参照